

文化情報誌

# たわわ

2019 No. 106

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



音楽の聴き方のカギを届ける。

## 作曲家 加藤昌則さん

このところ、人前で話をする仕事が増えてきました。クラシック音楽の面白さや聴き方を伝えるためのレクチャーの仕事です。

日本各地のホールで、クラシックのお客さんが入らないという話を耳にしている中で、頻繁に何うホールでも同じ悩みを聞きました。

「バッハはなぜ音楽の父なのか」「モーツァルトはなぜ天才なのか」、そういうことを自分の言葉で伝えられるかもしれないと声をかけてみたところ、やらせてもらえたんです。3年目ぐらいでしょうか。いつものホールだけではなく、地方のホールからもオファーが来るようになりました。それ以来、作曲の仕事、演奏の仕事に人前で話す仕事も追加されています。



ショーのようなエンターテインメント性が強いものはある程度聴き手が受け身でも入ってくるものですが、クラシック音楽は聴き手が入り込まないと作品とうまく関われない。

例えば美術館で何のガイドもなく絵画を見ても、そこに絵画があること以外は伝わりにくいです。ガイドや解説を聞いたりすると、その絵の見方が変わることがありますね。

あれと同じことがクラシック音楽にもあって、ちょっとした知識が聴き手のカギを開けたりするんです。

僕は昔から話すのが得意だったというわけではありませんが、大学時代に授業を抜け出して寄席に行っていたことがありました。囃家さんが客席を眺めながら枕をやって、相手を見ながら話すということはここで学んだのかもしれませんがね。そういう風に音楽以外のわき道にそれた関心も、今の僕の役に立っている気がします。

もともと僕はピアノを始めたのが小学校2年生の頃でした。大好きな幼馴染に好きになってもらおうと、彼女が習っていたピアノを自分も習ってしまおうというような不純な動機で始めたものだから、最初の半年は紙鍵盤で練習しなさいと言われて、ピアノは買ってもらえませんでした。



幼馴染と

そのせいもあって、ピアノ教室で鍵盤から音が出てくるのがとても感動的でした。五線譜に書いた記号みたいな音符を音として鳴らせる、自分で弾けるというのに興味を持ちました。小学生の頃は、平塚の駅前にあった楽器店で土日にずっと楽譜を読んだり、夏休みの自由研究でピアノ協奏曲を作って学年みんなの前で披露したり、作曲に夢中になって過ごしていました。先生にも恵まれて、僕が曲を作ることに協力してくださった方が大勢いらっしゃいます。

音楽に限りませんが、自分を表現できる手段というのを持っておく方がいいのだと思います。辛いことや悲しいことがあっても、ピアノに向かって悲しい気持ちをぶつけているといつの間にか発散できていることがあって、自分の何かを吐き出せるものがあってよかったと思っています。

若い頃は作曲もそんな風に自分を表現するというか、自己主張という側面もあってただ楽しく作っていたのですが、今は「作ろうとしているものがこの時代にあるべき意義は何なのか」と考えた上で作っていくという作業になるから、結果としてもものすごく色々なことを考えていますね。とても疲れ



第27回湘南ひらつか第九のつどいの指揮風景

もし学校で学生を教えるとするならば、お金をいただいて演奏するということは、自分の成果発表じゃなくて聴き手をどう惹きつけるかを考えなければ駄目だと思いを伝えています。

自分がこういう曲を弾かなきゃいけないという使命感も分かるけれど、それがお客さんにとって意味が分からないものなら一度考えないといけない。面白くないものでは、お金を払ってホールに来る人はいなくなってしまいます。

レクチャーの仕事は聴き手を惹きつける手段の一つだと思っています。

僕の話聞いてくなくても生演奏を聴いたことがない人がいるのはちょっと残念なことで、レクチャーの中からカギを見つけて、その延長線上でコンサートを楽しんでもらえるようなプログラムを作れたらいいですね。



レクチャー風景

演奏家も聴き手もどうすればいいのかと分からずにいるところに入って行って、色々な歯車が回るようにしていきたいと思います。

### 【プロフィール】

#### 加藤昌則 (かとう まさのり)

作曲家・ピアニスト。平塚生まれ、横浜育ち、平塚在住。

東京藝術大学作曲科を首席で卒業し、同大学大学院修了。

2012年《福島復興・復活オペラプロジェクト》作品「白虎」、2013年管弦楽曲「Legends in the Sky」、2014年連作歌曲「二本の木」（王子ホール委嘱作品）、2015年「地球をつつむ歌声」（2015年NHK全国学校音楽コンクール小学校の部課題曲（作詞：日野原重明））など。

2016年4月からNHK-FM「鍵盤のつばさ」番組パーソナリティーを担当。

独自の視点、切り口で企画する公演や講座などのプロデュース力にも注目が集まっており、2019年4月7日開催の東京・春・音楽祭「ベンジャミン・ブリテンの世界Ⅲ」では、企画・構成をつとめている。

公演情報：

[http://www.tokyo-harusai.com/program/page\\_6073.html](http://www.tokyo-harusai.com/program/page_6073.html)



## ひらつかの文化財を知ろう⑰

### 平塚の仏像を知ろう(平塚の平安仏)

平塚市内には、平安時代の仏像として確実なものが、2 軀知られています。吉沢の八剣神社所蔵の木造不動明王立像が有名で、国の重要文化財に指定されており、「かんまん不動」と呼ばれています。不動明王としては柔和な像で、彫刻の技や細かい作りから11世紀頃、畿内で造られたものと考えられていますが、東国造作説もあります。

もう1軀は、大島の正福寺にある木造薬師如来立像です。小粒の螺髪・丸い顔・穏やかな目鼻立ち・浅めの衣ひだの彫り方に平安後期に流行した和様の特徴がみられるもので市指定重要文化財に指定されています。

金目光明寺本尊の聖観音菩薩立像は、特定が難しいのですが、平安～鎌倉時代までの造立年代が考えられています。台座は、室町時代の明応二年(1493)に補われたもので百人を超える名前の墨書銘があり、著名な太田道灌



木造不動明王立像(八剣神社)

の名前もみられるものです。

寺田縄吉祥院の伝薬師如来像は、火災に遭い痛々しい姿ですが、一木造などの総体的特徴から、平安時代後期の造立と考えられています。このように平安仏の残りが少ないのは火災や天変地異などで消滅した結果なのです。例えば、古都奈良でも、源平の争乱や明治時代の廃仏毀釈などで、ほとんどの奈良・平安時代の仏像が消滅していました。なかには、どさくさのなかで、外国へ輸出されたものもあります。



木造薬師如来立像(正福寺)

簡単な計算をしますと、仮に9世紀初頭に100軀の仏像があったとして、100年毎にその7割が残るとすると、21世紀まで1軀の仏像しか残らない計算になります。

市域は、相模国府の所在や、相模武士団が活躍した地域であり、仏教など地方文化の中心をなした地域の一つとして多数の仏像も存在したでしょうが、その内、奇跡的に数軀の仏像が残されてきたといえましょう。未来へ向けてこれらの貴重な文化財を伝えていかなければなりません。

## リトアニアだより(6)

今回は、リトアニア語のあらましについてのお話です。



リトアニア語は、インド・ヨーロッパ語族のバルト諸語派に属する言語で、言語学的観点から見てきわめて古風な言語であることで知られており、リトアニア共和国の公用語であるとともにEUの公用語ともなっています。現在、人口約300万人のうち8割強を占めるリトアニア人によって母語として話されている他、国内に住むポーランド人、ロシア人やベラルーシ人といった他民族の多くもリトアニア語を話します。また、アメリカ合衆国やイギリスなど諸外国にも話者がいます。

リトアニアの名が記された最も古い文献は1009年に遡ります。その後、13世紀に統一されたリトアニアは、中世後期の14～15世紀にかけて東ヨーロッパ最大の国家として繁栄しました。しかし、当時の公文書には古ベラルーシ語が使用され、リトアニア語で書かれた最初の書物であるマージヴィダスの『教理問答書』(1547)を始め、初期の古文



献が現れたのは16～17世紀のことです。ロシア帝国の支配下でラテン文字の使用が禁じられた時期(1865-1904)、リトアニア語は消滅を確実視される状態にありましたが、幸いなことに、19世紀末から高まりを見せた民族運動とともに復活しました。言語学者ヤブロンスキスは、『リトアニア語文法』(1901)を地下出版し、文語としての標準リトアニア語の形成に大きく寄与して「リトアニア語の父」と称されます。

リトアニア語が初めてリトアニアの公用語となったのは、第一次世界大戦後の独立共和国時代(1918-1940)のことでした。1940年に国がソ連に併合され事実上の公用語はロシア語となりましたが、その状況も1990年にリトアニア



がソ連からの離脱を宣言し、独立を回復するに及んで解消しました。リトアニア語は再び国の公用語となったのです。



東京外国語大学リトアニア語講師 櫻井映子(文学博士)

# 足もとの星座たち 第6回

「足もとの星座たち」第6回は、前号で紹介したアンドロメダの母である王妃カシオペヤと、アンドロメダを化けくじらから助けた英雄ペルセウスを取り上げましょう。

カシオペヤ座は言わずと知れた、アルファベットのW字形の星座。第3回に登場したおおぐま座の一部である北斗七星と合わせて、北極星を探す目印となる星ならびとして有名です。2等星3つと3等星2つからなり、澄んだ冬の夜空であれば平塚の街中でも比較的かんたんに見つけることができます。しかし、W字形に星をつないで王妃さま？と思われるかもしれませんが、実はカシオペヤ座の星ならびは彼女が座る椅子を表しているとも言われています。アンドロメダ姫が生贄に捧げられることになったのは、元はといえばカシオペヤの過度な自慢が発端。その罰として、彼女は椅子に縛り付けられたまま、北の空をぐるぐる回り続けていると言うのです。ヨーロッパにおいて、カシオペヤ座が地平線下に沈むことなく一年中見え続けることと結び付けているのでしょうか。平塚でもカシオペヤ座はぎりぎり沈むことなく一年中見られるはずなのですが…大山や丹沢の山々が邪魔をして難しいのが実際のところ。なお、カシオペヤ座の和名の一つに「やまがた星」があります。空高く昇ったカシオペヤ座の星ならびはW字というよりM字に見えるのですが、それが山の連なりに見えたのでしょうか。

カシオペヤ座の東隣にあるペルセウス座は、よく漢字の“人”の形に星が並んでいると言われます。が、明るい星が少ないため平塚の夜空でその形をたどることは容易ではありません。ペルセウス座には二重星団と呼ばれる有名な散開星団があります。天の川が見えるほどの夜空であれば肉眼でもボーっと見え、二つの散開星団がたまたま同じ方向にあって並んでいるため二重星団の名を持ちます（実際は地球からの距離

が異なり、並んで見えるのは見かけだけです）。

双眼鏡や望遠鏡があれば平塚でもかろうじて見ることができしますので、星を見る会などの機会にチャレンジしてみてください。

ペルセウス座の星座絵タイルは平塚山下線と大門商店街の交差点に2つ、カシオペヤ座の星座絵タイルはその西隣の交差点に3つ設置されています。まだまだ寒さが厳しい日が続きますので、タイルを見に行くときも空を見上げるときも寒さ対策をしっかりとってくださいね。



カシオペヤ座の星座絵タイル



ペルセウス座の星座絵タイル



二重星団

2つの星団が見かけ上、ならんで見える珍しい星団。  
(関谷育雄氏撮影)

(平塚市博物館学芸員)

## D e L S o L e プラネタリウムコンサート「移りゆく季節の中で」

日時：3月22日(金) ①15時～、②19時～ (各90分程度) 観覧料：500円(18歳未満65歳以上は300円)  
申込：往復はがきに代表者氏名、住所、電話番号、人数(1枚のはがきで3名まで)、希望する回(どちらか一回のみ)を書いて  
3月13日(水) 消印有効で博物館まで申し込みください。 定員：各回60人(応募多数時抽選)

## 平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。

基金に御寄附いただいた方々(2019.1.31現在)  
竹遊会(2018.12.15)

平塚市文化振興基金は、小学校アウトリーチ事業、ひらつか音楽のおくりもの、第九のつどい、市民合唱祭、各種囲碁事業など、市民の皆様が触れる多くの事業で活用されています。



発行

平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成31年(2019年)2月15日発行 e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm>

再生紙を使用しています